

企業ニュース 西尾レントオール

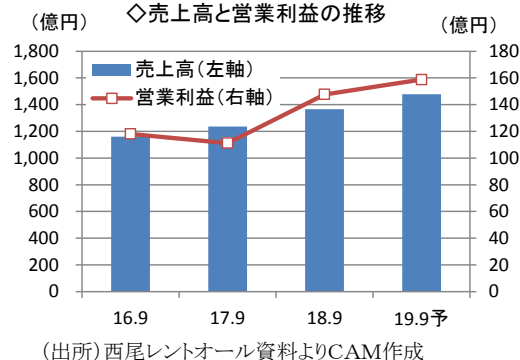
(東証1部：9699) <http://www.nishio-rent.co.jp/>

作成者：奥村義弘

総合レンタル業のパイオニア

1959年設立。大阪市に本社を置く。1965年より開始した道路機械のレンタル業を皮切りに、建設現場で使用される機械・器具のレンタル商品化に注力、サービス網を充実させてきた。建設業界以外でも展示会やイベント用の機材や通信映像機械、産業向けに生産加工機器のレンタルなども手がける。全国で事業展開しており建機レンタル業界の売上高では、アクティオ（未上場）、カナモト（9678）に次ぎ国内3位（会社推計）。イベント・展示会レンタル業界でも国内3位（同）。18.9期の売上高構成はレンタル関連97%、その他3%。

◇売上高と営業利益の推移



堅調な国内需要とM&Aで業績を拡大

18.9期の連結業績は売上高が1,367億円、前期比11%増、営業利益が148億円、同33%増。建築・建設分野では民間建築工事が好調であった。首都圏再開発工事や工場・物流倉庫向けの高所作業車や揚重機を中心に拡販した。プラント工事では火力発電向け等が好調に推移した。道路・土木工事では高速道路工事向けに道路舗装機械や汎用機の売上を確保したのに加え、自然災害など緊急工事向けを優先的に対応した。利益面では、単体を中心にレンタル粗利益率が改善、双葉電気や豪州のノースフォークなどM&A事業も加わった。

19.9期の会社予想は売上高が1,479億円、前期比8%増、営業利益が159億円、同8%増。引き続き国内の民間建築関連の好調を見込む。東京オリンピック・パラリンピック向けでは大型テント、仮設観覧席、4K中継車などで受注目標39~50億円を見込み、19.9期より一部売上計上する。中期的には、土木舗装やトラックマウントなどROI (return on investment: 投下資本利益率) の低い分野ではICT (Information and Communication Technology: 情報通信技術) 施工やインフラメンテなどに注力し改善を図る。また、プラントやイベント分野では収益性の高い小型機械の拡大を図る。海外では豪州などで地元ユーザー向けに高所作業車やフォークリフトなど機種を絞った事業拡大を加速する。

[株価動向・投資判断]

2025年の大阪万博開催決定でイベント事業に強みを持つ存在はクローズアップされやすい。

<9699 西尾レント 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.9	123,538 (7)	11,121 (▲ 6)	11,017 (▲ 2)	7,171 (4)	275.8	57.00
18.9	136,682 (11)	14,770 (33)	14,489 (32)	9,323 (30)	346.0	70.00
19.9 予	147,860 (8)	15,880 (8)	15,500 (7)	9,600 (3)	342.5	70.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)

株価(2018/11/26)	4,090 円
年初来高値(高値日)	4,220 円(18/11/12)
同 安値(安値日)	3,105 円(18/3/26)
予想 P E R (19.9 予)	11.9 倍
1株株主資本(PBR算出用)	3,188.3 円
P B R	1.28 倍
予想配当利回り	1.71 %
(1株当たり配当金70.00円)	
R O E (18.9)	11.4 %
発行済み株式数	2,839 万株